



## 「未来授業」で自衛隊を学習



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己1等空佐）は、6月21日（木）、掛川市立原野谷中学校で行われた「未来授業」に参加した。

「未来授業」とは、一般社団法人未来学校が主催し、さまざまな職種で働く大人が、子供たちに働くことの楽しさや生きがいなどを伝え、将来の夢や可能性を広げることを目的に行われているもの。

当日は、接客業や飲食業のほか司会業、音楽演奏家など多彩な業種から22人の講師が参加し、静岡地本からは袋井地域事務所広報官の渡辺悠太3等海曹が海上自衛隊の講師として、約50分間を2回、それぞれ5、6人の生徒を対象に行った。

授業では、生徒が社会人になったつもりで自分の自己紹介を記載した名刺を持ち、講師の渡辺3曹と名刺交換。渡辺3曹は生徒たちと和やかな雰囲気をつくった後、自衛隊の活動や任務、役割などについてスライドを使いながら丁寧に紹介するとともに、自身が今まで乗艦した海上自衛隊の艦艇や、南米・東南アジアでの海外勤務経験について、ユーモアを交えながら伝えた。

授業の後半では、艦艇勤務に欠かせないロープワークを紹介し、生徒たちはさまざまな結び方を真剣に学んでいた。生徒からは、「小さい頃から自衛隊に興味があったので、話を聞いたりロープワーク体験ができて楽しかった」「将来の夢は民間のパイロットだが、自衛隊機のパイロットにも興味が出てきた」などの声を聞くことができた。

静岡地本は、今後も学校等と積極的に交流し、自衛隊に対する認識と理解の向上に努め、若者が描く未来の夢や可能性の拡大結実に貢献していく。

## 進路ガイダンスで自衛隊をナビゲート



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己1等空佐）は、7月7日（土）、私立城南高等学校（静岡市）の「2018進路ガイダンス」で、自衛官になるための6コースを紹介した。

この進路ガイダンスには、大学52校、専門学校25校のほか、官公庁や企業19社が説明ブースを設置。在校生680人が各ブースに足を運んだ。

防衛省・自衛隊ブースには多くの生徒が訪れ、広報官が自衛官候補生や防衛大学校などを紹介し、理想の未来を実現する6つのコースについて、自衛隊の魅力とともに伝えた。

今ガイダンスのテーマでもある「未来がきつと見えてくる・将来必ず生きてくる」に少しでも近づけるように、生徒は隊員の説明に耳を傾けて真剣にメモを取り、自分の将来を実現する第一歩を踏み出した。

ブースを訪れた生徒からは「自衛隊の職域がこれほど細かく分かれていることを知り、自分は入隊したら将来どの仕事につくのか楽しみ」「高校生が自衛隊に入るためのコースが6種類もあることを初めて知った。防衛大学校を卒業しないと幹部自衛官になれないと思っていたが、今日話を聞いて、違うコースからでもなれることなど、更に自衛隊のことを学べた」といった率直な意見を聞くことができた。

静岡地本は、今後もこのような学校が行う進路ガイダンス等に積極的に参加し、多くの生徒に自衛隊の魅力が伝わるよう広報活動に努めていく。